

1. 調査目的等

中学校全学年の生徒の学力を把握・分析し、学校における教育指導の成果と課題の検証やその改善及び進路指導に役立てる。

2. 学校ごとの指標

標準偏差値において、県の標準偏差値を上回る。

3. 指標にむけての取組

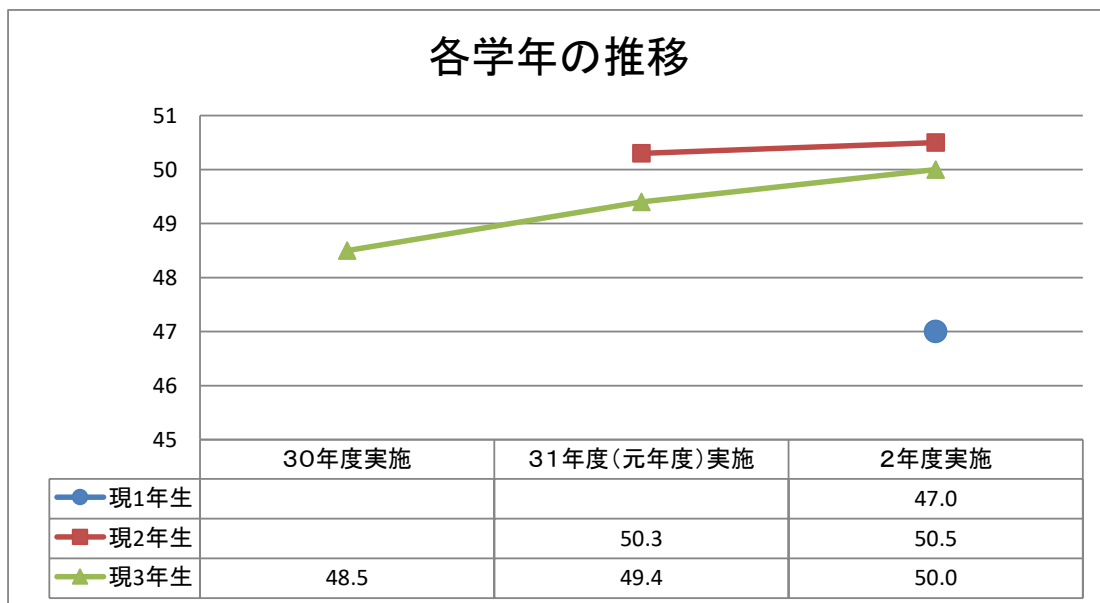
- 基礎・基本の定着
 - ・一単位時間の中で、学習内容の定着を図るミニテストを実施する。
 - ・計画的な朝学習の実施(基礎・基本の定着を図る問題をスモールステップで実施)
- 授業づくりの改善と家庭学習の質と量の向上
 - ・授業づくりと自学ノートの取組の連動と充実
 - ・個に応じた課題の提示
 - ・週末課題での振り返り
- 定期テストにB問題を取り入れるなどの見直しと、それに対応した授業づくりを協議する教科部会の実施
- 各教科における領域別の得点率などの細かなデータから、実態や課題を把握し、系統性のある改善策を立てる。

4. 調査結果

※学校平均5年間の推移 (標準偏差値50に対して)

年度	28年度	29年度	30年度	31年度 (元年度)	2年度
本校(A)	45.0	45.3	48.8	49.6	49.2
嘉麻市(B)	47.3	47.9	49.3	48.8	48.6
(A)－(B)	-2.3	-2.6	-0.5	0.8	0.6
標準偏差値との差 (A)－(50)	-5	-4.7	-1.2	-0.4	-0.8

各学年の推移



5. 各学校における分析

- ・3年生は、入学時から少しずつ上昇している。また、2年生はわずかに上昇している。各教科の授業において、学習内容の定着を図るミニテストや自学ノートの取組を実施したこと、また、計画的な朝学習や個に応じた週末課題の実施、班学習などの教え合い活動が要因として考えられる。
- ・1年生は、2・3年生に比べ、低い数値を示している。
- ・『ことば力』に関する資料としては、1年生において、習得レベルが「教科書内容の理解に相当の努力を要する」、または「教科書内容の理解に苦勞する」の生徒の割合が、36.1%を占めており、語彙力に課題がある。また、1年生において、段階1の生徒の割合が、72名中12名と学力の二極化が激しく数値に現れている。そこで今後は特に、語彙力を養うために、小テストの内容の工夫や授業の「振り返り」における書く活動の工夫など、語彙力に特化した取組が必要である。

6. 各学校における今後の取組

- 基礎・基本の定着
 - ・一単位時間の中で、学習内容の定着を図るミニテストを実施する。
 - ・計画的な朝学習の実施(基礎・基本の定着を図る問題をスモールステップで実施)
- 授業づくりの改善と家庭学習の質と量の向上
 - ・授業づくりと自学ノートの取組の連動と充実
 - ・個に応じた課題の提示 (週末課題)
- 定期テストにB問題を取り入れるなどの見直しと、それに対応した授業づくりを協議する教科部会の実施
- 各教科における領域別の得点率などの細かなデータから、実態や課題を把握し、系統性のある改善策を立てる。
- 短期的なPDCAサイクルの実施
- 授業規律の確立に向けた、稲築中学校区としての取組の推進(『授業の約束』の徹底)
- 学力向上に向けた小中の連携(小中の学力向上コーディネーターの定期的な会議の設定)

7. 嘉麻市教育委員会としての今後の取組

- ◎ 今後の取組を具体化し推進することができるように、特に、次の3点について指導助言及び支援を行うとともに、周知徹底できるように継続的に指導する。
 - ◆ 嘉麻市学力向上全体構想に設定した思考を伴う「書く(かく)活動」や目的のある「話し合い活動」を核とした授業づくりを推進する。また、「問いづくり・思考づくり・価値づくり」の視点をもとに授業改善の取組を推進する。そのために、校内研修での授業観察指導を実施したり、「学力向上に向けた授業づくりの8つのポイント」や「書く活動ポイント9」を活用することができるように指導助言や支援を行ったりする。
 - ◆ 嘉麻市学力向上全体構想に設定した「家庭学習の取組」を推進する。そのために、個に応じた学習課題の提示を進めるとともに、自学の習慣化に向けた具体的な取組を提示したり各学校の取組のよさを交流する場を設定したりする。
 - ◆ 嘉麻市学力向上推進委員会に基づく学力向上検証改善委員会を開催し、「思考力・表現力等を問う定期考査」の実施、それに伴う授業改善を推進する。また、各学校が作成した「思考力・表現力等を問う定期考査」問題を交流する場を設定することで、質の向上を図る。